

〔23.10.27 災害応急対策に関する検討会（第6回）資料〕

**東日本大震災に対する
防衛省・自衛隊の活動状況
（在日米軍との協力）**

**平成23年10月
防 衛 省**

米軍の活動(TOMODACHI作戦)



米軍の支援兵力

【最大時】

○航空機: 約140機

○艦 艇: 約15隻

○人 員: 約16,000名

海軍、海兵隊、陸軍、空軍、
CBIRF(海兵隊)等

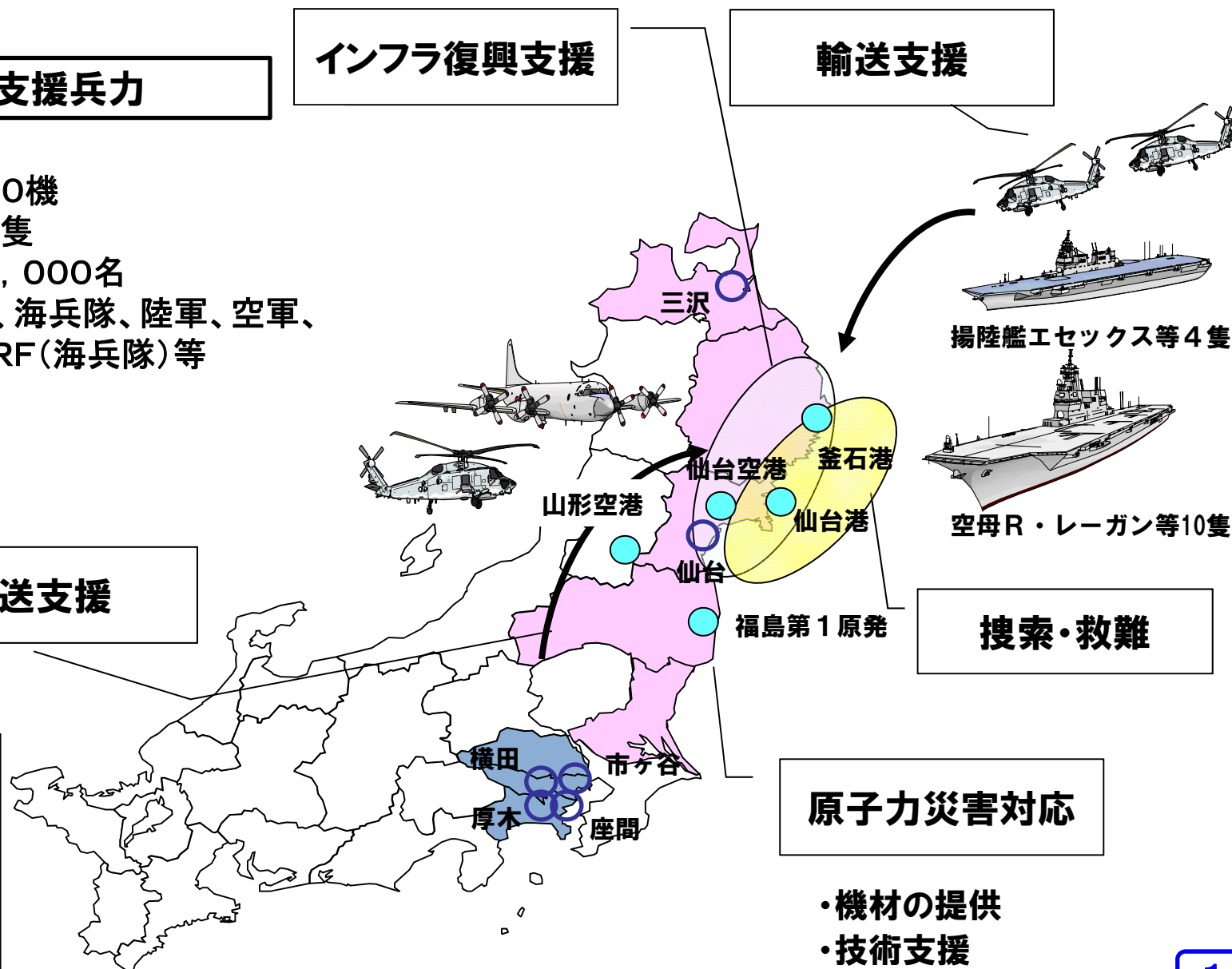
インフラ復興支援

輸送支援

輸送支援

日米調整所

防衛省(市ヶ谷)、在
日米軍司令部(横田)、
陸自東北方面総監部
(仙台)に設置した日
米調整所は、米軍の
支援に係る総合的な
調整機能を発揮



搜索・救難

原子力災害対応

- ・機材の提供
- ・技術支援

被災者の捜索・救助支援

- ロナルド・レーガン等が艦艇やヘリによる捜索・救助支援を実施(10名の被災者を救助)
- 米海軍P-3哨戒機(オライオン)が捜索活動を実施(支援を求める地上のサインを自衛隊に通報する等の活動を実施)
- 自衛隊及び米軍等による行方不明者の沿岸部集中捜索を実施



ヘリによる捜索・救助の状況



艦艇による洋上捜索の状況

救助物資・人員の輸送支援、物資の提供

- 米軍は、食料約246トン、水約8,131トン及び燃料約120トンを提供・輸送
- 米海兵隊は、揚陸艦エセックス等による救援物資の輸送を実施(3月27日、エセックス部隊は、大島(気仙沼市)への電源車や燃料の輸送を支援)
- 米揚陸艦トウトウガが北海道の陸自隊員約240名及び車両約100両を被災地へ輸送
- 米空母ロナルド・レーガンの乗員がコート700着、靴100足、生活必需品を寄付



仙台空港を離陸する米軍輸送機



陸自車両を米艦艇へ搭載する状況

福島原子力発電所事故への災害対処

- 原子炉冷却支援
 - －消防車の東京電力への提供(2両)
 - －消火ポンプ5台の貸与
 - －放射能防護衣の提供(約100着)
 - －真水搭載バージ(2隻)とポンプの貸与
(それぞれ海自艦艇及び陸自車両により輸送)
 - －ホウ酸の提供(約9トン)
- 情報収集・分析(航空機による放射線測定、画像の撮影等)
- 専門家の派遣(防衛省統合幕僚監部に3名が常駐)
- 米海兵隊・放射能等対処専門部隊(約140名)の派遣



米側より提供されたバージ
(淡水搭載)



バージ船を曳航する海自艦艇「あまくさ」



米側より提供されたポンプ

被災地のインフラ復興支援

- 米海兵隊・陸軍等が、仙台空港における民航機運航のための復興支援を実施（米軍機により一部運用）
- 米海軍は、サルベージ船を用いて、沈没船引き上げ等の港湾復興作業を実施。また、八戸港や宮古港においても復興支援を実施
- 米海兵隊が、気仙沼市大島の瓦礫の除去等を実施
- 米海兵隊が、石巻市の小中高校の瓦礫の除去等（学生等との共同作業）を実施
- 米陸軍が、自衛隊との共同でJR仙石線の復旧作業（ソウル・トレイン作戦）を実施

空港地域内における瓦礫除去の状況



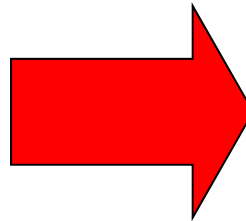
石巻工業高校でのヘドロ除去作業の状況



JR仙石線野蒜駅の状況
(23.4.20)



JR仙石線野蒜駅の状況
(23.4.23)



東日本大震災への対応に関する教訓事項

状況等

※「東日本大震災への対応に関する教訓事項について(中間取りまとめ)(23年8月公表)」

- ① 防衛省(市ヶ谷)、在日米軍司令部(横田)、陸自東北方面総監部(仙台)に設置した日米調整所は、米軍の支援に係る総合的な調整機能を発揮
 - ・米軍は統合支援部隊を編成して、自衛隊と緊密に連携し、大規模な「トモダチ作戦」の下、人道支援、災害救助その他の活動を実施
 - ・日米の共同による活動を調整する日米調整所は、ガイドラインの調整メカニズムに準じる形で設置
- ② 当初、調整所要に比し、日米調整所の体制が不十分であり、各調整所の役割等が不明確な状況が生起。また、防衛省の対米窓口が不明確な状況も生起
 - ・逐次要員を増加して体制を強化し、情報共有のカウンターパートについては、逐次整合性を確保
 - ・内局、各幕等から市ヶ谷、横田及び仙台に合計約80名の要員を配置
 - ・発災当初、対米窓口が案件により異なっており、米側にとって不明確な状況が生起

教訓事項

- ① 日米調整所を中心とする意思疎通及び運用調整により、日米共同による活動は大きな成果(将来の各種の事態への対応に係るモデルとなり得る。)大規模災害に際して、調整メカニズムの運用を開始することや、日米調整所の設置がガイドラインで明確にされているわけではなく、調整メカニズムの在り方や日米調整所の位置付けについて今後検討が必要
- ② 各日米調整所の人員・機能の増強についての検討及び機能の明確化に加え、情報共有・調整のためのカウンターパートの整理が必要

状況等

③ 複合的な非常事態・災害に対する要領の未整備

国内災害対処のための日米共同要領が具体化されていないため、自衛隊と米軍の役割・任務・能力の明確化に時間を要し、発災当初には、米軍の準備が一部整っていたにもかかわらず、直ちに支援を開始できず

④ 震災対応における関係省庁を含む政府全体の日米調整の枠組み整備に課題

- ・震災対応に関して、日米共同による活動は十分検討されておらず
- ・米軍の人道支援・災害救援の要請内容は、主として統合任務部隊司令部や統幕内で検討
- ・原発災害対応に関しては、日米の関係者による会議が発足して以降は、円滑な調整を実施

⑤ 東北防衛局による語学職職員等の派遣

- ・東北方面総監部へ派遣し、日米調整所における連絡調整業務や会議等における通訳業務等を実施
- ・米軍の活動に同行し、米軍と現地関係者等の間の連絡調整の支援や、米軍の活動のアフターケアを実施

教訓事項

③ 国内災害における日米の役割・任務・能力を明確にして、相互に支援できるような共同要領を具体化すべきであり、また、防災訓練への米軍の一層の参加の検討が必要

④ 日米調整所と緊急災害対策本部を通じた関係省庁との連携強化や、大規模災害に関して、発災当初より日米の関係省庁が一堂に会する場を設置するよう検討が必要

⑤ 語学職職員等の活動により、米軍の円滑かつ効果的な活動に貢献

今後も、米軍による災害救援活動に際して、現地関係機関との調整等のため、当該職員等の積極的な投入・活用が適当

日米友好のため、横田基地フレンドシップ通りの中央に設置されている「友達の像(Tomodachi Statue)」

